

★オオミズナギドリのつかみ方 (島に入る全員必修課題)

するどい嘴、爪、力強い動きに注意する。こつは「頭」をしっかりとボールのように握ること。首をつかんでいると、かまれることがある。つぎに蹴り上げてくる足を2本つかむ。片腕で、つかむ練習をすること。

★足環の確認のための手順

右腕でつかんでいる個体を、左腕に移す。両足を確認する。

足環がついておれば→記録係にRと報告し、番号を読み上げる。

足環がついていなければ→記録係から新たな足環を受け取り、あらたに右足につける (後述)。

★足環番号について

足環番号は2文字のガイドナンバーと、5桁の数字からなっている。ガイドナンバーの一部はリングサイズ (オオミズナギドリの場合は9番リング) を表わしている。

ガイドナンバーには、9Aと9Bがある (過去はいろいろ)。どの年度にどのようなリングを使ったかは別表参照。

★記録係への足環番号の報告のしかた

例えば「9A-12345」ならば「9Aの123の45」と3つに分けて報告。記録係は復唱。報告者は確認後に調査の進行方向と逆の方へ逃がす。

★ダブルリング

右足と左足の両足へ足環がついている個体がいる (うっかりとつけたもの)。ダブルリング (D) と記入し、右足と左足を区別して記録する。

★新たな足環のつけたか

記録係は、Nと新しい足環番号 (オリジナルシートの最初以外は下3桁で記入) を書いた後に、鳥を持っている人に足環を渡す。受け取った足環は、左手に握られた個体とともに持つ。右手にプライヤーを持ち、鳥の右足に足環をセットして、まずプライヤーの先端側のへこみで滴型にしめる。次に、プライヤーの奥のへこみを利用して90度回転した足環を、丸くしめる。足環に隙間がないかを確認のこと。終了後、調査の進行方向と逆の方へ逃がす。記録係は、足環の番号が連続になっているか常に気をつけること。

★オオミズナギドリへの標識足環番号遠見表 (各年度の標識番号の範囲)

(経過年を左欄外に記入しよう!) 他にインコロイへの交換リング295羽あり。

標識年度	標識時成鳥		標識時雛	
	標識数	足環番号	標識数	足環番号
1989	217	09A00001~09A00261	688	09A00262~09A00950
1990	743	09104801~09A15831	0	
1991	432	09A15484~09A21208	0	
1992	506	09A21160~09A22451	0	
1993	439	09A21301~09A22592	0	
1994	687	09A21414~09A23000	0	
1995	421	09A22874~09A40987	0	
1996	373	09A40988~09A41575	75	09A41576~09A41650
1997	671	09A40649~09A42200	500	09A42201~09A49700
1998	269	09A49001~09A49701	0	
1999	518	09A41086~09A49916	0	
2000	413	09A49117~09A50400	0	
2001	275	09A50329~09A50665	0	
2002	751	09A50666~09A74465	0	
2003	562	09A74466~09A75045	0	
2004	448	09A75046~09A75500	0	
2005	572	09A75501~09A92581	0	
2006	766	09A92582~09A98259	0	
2007	533	09A50424~09B05398	0	
2008	774	09B05289~09B10300	0	
2009	464	09B10301~09B10800	0	
2010	443	09B10801~09B13720	0	
2011	147	09B10950~09B13816	0	
2012	336	09B13817~09B14174	0	
2013	356	09B13981~09B31022	0	
2014	232	09B14490~09B31288	0	
2015	404	09B31201~09B34500	1	09B31385
2016	324	09B34397~09B38150	0	
2017				
計	13076	1973-90(モネル)43411	1264	1973-90(モネル)5706

※ガイドナンバーを3桁で表示 (09Aは実際は9A) (作成 H. SUGAWA 2017/05)

※このマニュアルはA4版で印刷して折りたたみ、A6版ケースに入れて使う

★交換リング (現在は交換が必要なリングには出会わないはず)

古い足環 (もうはずれそう、または番号が読みとりにくい) は、新しい足環に交換する。スナッピングプライヤーで古い足環をはずして保管する。記録係から受け取った新しい足環をつける。記録係は、以下のように記録する。

C (交換を示す) 古い足環の番号→新しい足環の番号

★紛失リング

オオミズナギドリに跳ね飛ばされた足環は、できるだけ探して欲しいが、判らない場合は紛失リングとして足環番号を記録すること。

★区画単位の調査の進め方 (区画境に事前にロープを適宜伸ばすと便利)

10m×10m単位の区画の表示法 (E1N1→東1北1 2次元表示。南西隅のポールにその区画の位置を表示)。

地表目撃数と開始時刻を記録して後に捕獲標識調査を開始する。

※時刻の記録法→24時間方式だが、翌朝の夜明けまでは日付を変えずに30時間方式で記録し集計する (例 6月3日は、6月3日昼~翌朝夜明けまで) 午後8時12分→20:12、午前3時15分→27:15

※特別な記録 地表でなく巣穴からひっぱりだした個体→B (Burrow巣穴)

交尾で上にいた個体→上、下にいた個体→下

抱卵斑の記録 (8月の調査時) 0 (発達せず) →1→2→3 (卵1つつ分あり)

(育雛初期の調査) 3→4 (元に戻りつつあり) →5→0 (元の状態)

性別は鳴き声で確実に判断できた時に記録する。

★翌朝におこなう集計

各シート毎にR、N (新放鳥) 別に

記録して、各調査日毎に集計して、標識日誌に記録する。この際にNの番号が連続番号になっているかを確認する。

★帰島後の作業のアウトライン

①記録をスキャンしてPDFファイルとする。

②分担した範囲を印刷し、送付されたエクセル画面へ入力する。

③読み合わせ会をおこなう。元の記録と印刷したファイルの確認をする。

④エクセルのVLOOKUP関数等を使って過去の記録と対照させ、装着日が判明。

⑤標識年度別に標識時成鳥か雛か別の表などを作成する。

⑥ファイルを山階鳥類研究所へ送る。回収記録はここで判る

⑦情報を集積して解析する。

★1984年よりパソコンによる入力作業がはじまっている (PC8201→PCの歴史!)

1983年以前の入力の一部しか入力されていない

資料もあります。オオミズナギドリの持つゆったりとした時間の流れを感じとる作業に乞協力。

★主要調査区画 (太線内) (二重線は飛び立場) N0とS1は最近やっていない。

	W5	W4	W3	W2	W1	E0	E1	E2	E3	E4
N7										岩場
N6									E3N6	E4N6
N5		QK			W1N5	E0N5	E1N5	E2N5	E3N5	E4N5
N4			W3N4	W2N4	W1N4	E0N4	E1N4	E2N4	E3N4	
N3	W5N3	W4N3	W3N3	W2N3	W1N3	E0N3	E1N3	E2N3	E3N3	
N2	W5N2	W4N2	W3N2	W2N2	W1N2	神社	E1N2	E2N2		
N1					W1N1	E0N1	E1N1	E2N1		
N0		W4N0	W3N0	W2N0	W1N0	E0N0				
S1		W4S1	W3S1	W2S1	W1S1	E0S1				
S2										

※各区画の表示は南西隅 (図では左下) のポールに表示する。

QKは1977年よりの調査区画 (W4N5と入力)。岩場E4N7、神社N0E2。

テント場付近は99, 99。過去の海岸の飛び立ち調査はW5S9 (八木班)。

★外部計測 全頭長を計る→104.5mmより大(雄)、101.5mmより小(雌)

それ以外は鼻孔前端嘴高を計る。オリジナル欄外に記入する。

冠島調査研究会 須川 恒 〒607-8493 京都市山科区日ノ岡朝田町43-1-2-202 TEL 075-502-2240 E-mail CXD00117@nifty.ne.jp

さらなる情報は「冠島調査研究会」で検索してホームページへ!!